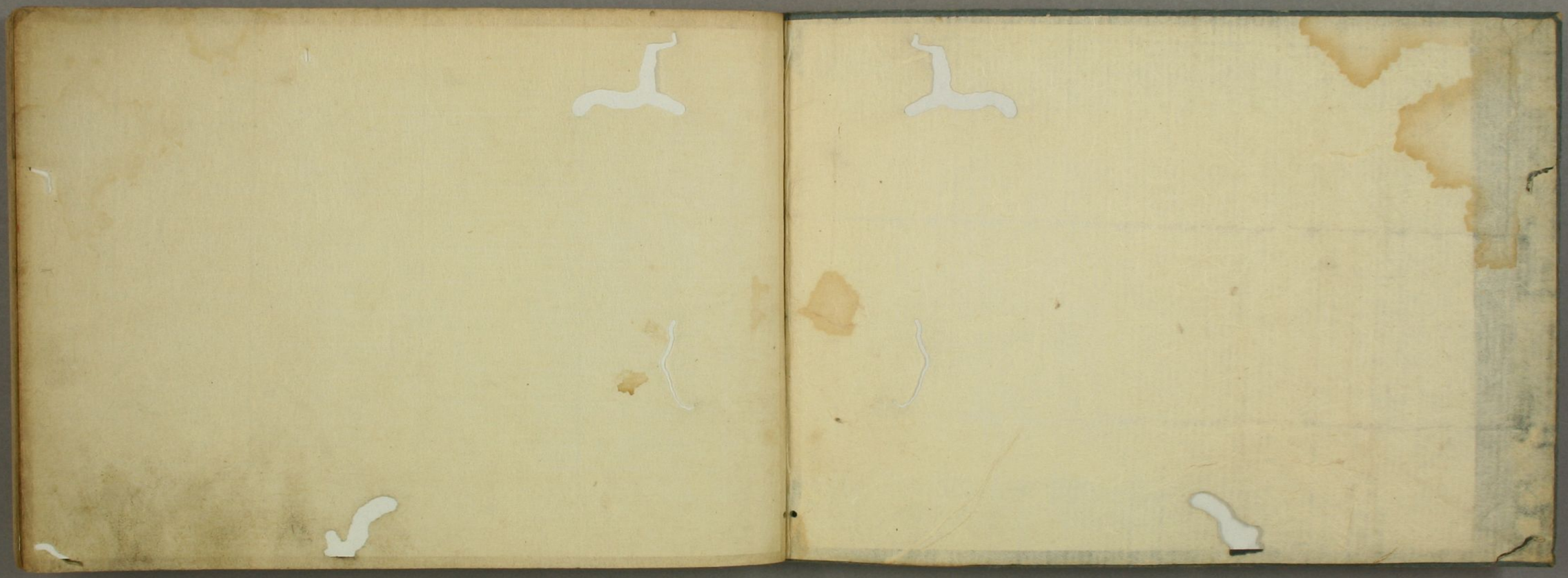
天満宮八百年忌
亀井戸千句

中村俊定文庫
文庫 18
14



元禄十四巳正月吉日

聖廟八百年遠忌 雖為末年

年當春引上行之下総國

不所亀井戸菅原僧都信仙

宗祐田村

村

世一 松

山何

高辻大納言

豊長卿

八百年松やさうふつ代の春

久しき宗明の浦安の風信

東風ふけば梅といふ船浦よあ晨

光やうつく塩あひの東清

月すむ月の宿ひあつ[illegible]

扇のもとて又も小萩 紫山

源山[illegible]秋の[illegible]雷 曇

桂の松戸や峰の河[illegible] 信仙

蒙屋根は荒れ落ちて風 元敬
降りけ衣明日や干さむ 氏仍
約人のいとまあるべき袖結べ信甫
花の人ぬ花や菊 孤峰 蕉師
郭公ちる雨に濡れ 信
弱ひきうつる雨のあと 元晋
一村つつる秋中の月 田
清水もいとつるやう 弛
切籠ぬさいまし 山
白雲の彩つれる 兆
ふもとの秋の 仙
ふもとの秋 兼
ふひきやや 部 云 篠
舟ひとり 仍
秋の暮 孤 敬

たるあり清水の山 河
曙色の里乃秋深きころ 甫
田刈るは秋の菊 弛
まこもかれ乃朝霧未 信
面さへ打もむふぬ 兆
ひれあつこの月 田
琴の師を狩 篠
書けきうつる秋 山
時雨も山 仙
千年も秋のうち 敬
雪ふる菊京 信
矢田野や秋も 仍
月の新 甫
和清水 弛

翠つる雲の宮ぬいたるし　因
なくたゝみ世を八さを　信
ゆつるるゆまあそつゝ中る　仍
きのちとて世に捨てゝ　何
雲沢松の千代と新し　山
うぬやくるしやくる行の系　築
あつまるいひつる氏る新つ　地
をさ乃来やある桜人　散
武蔵野いつ吹て風　他
雲の実ぬ雪ハ時てき　山
散ちる月を問つる　信
ハ宮ちぬ雨あ　南
独ぬいれの花ぬく　築
人ゝたとり山住の春　北

こ
春しつ笑の新毛ぬし　山
あつすきつ世問つ花も　地
ひる秋いたしを綿よ　何
力車乃を霞こちぬ　信
立て行つんつわこれ　北
さしつゝたゝね宮花　因
新毛あぬいて春忘　南
きてかれハうむ石士　仍
今朝とも所ゝさを切　地
ゝりしの友とたを面　山
芦節ふを雑ゝも果ぬ松の凡　信
志ゆれ乃しし華乃を　築
きをゆひしゆを月ゝさ今　散
屋りをを清宮のすく　他

いさらゐそまく岩ぐを小舟ら　山
初雁の雁　むしろ　何
刈りも田舟や風の間ゑ　蘭
漕ぐうけうし日陰事ぬ　孤
笹井の御とこそ舟ゑて　仙
ひろひろ広たり粒貫　信
書ゐる志初の来ぬ間まれ　同
ゐ井北行く陰ぬ　北
てやゐの間ゐ居ゐ　仍
雪ゐ初をく鳥啼ゐ　散
時ゐゐ　何
こすむゐ情の言　何
ものゐ間ゐ　信
雨ゐつ　孤
　源東　南

ゐを逢も治れる世の言　信
嬉やゐ入縣め　仍
白ゐ言へき　散
ちとけちれるぬ　山
童の戸ゐ　南
けゐぬや言遠ん　仙
ゐいよをて庵拾已　仍
うゐ童も言言き　孤
海の言庵の海家信　同
いのまゐくすみの深　孤
風を言ふを星小野の秋の言　北
妻やりとめくゐ庵の信　何
清ゐぬ片山林立ゐ　仙
おゐんの友ハ住居　信

昔今[illegible]山
むさしつ[illegible]の夏小菊 孤
下紐の[illegible]結ぶも恋ひそ 何
又[illegible]人重やうちも此実 因
ゆうきふ[illegible]の山 樂
いひし何ふ[illegible]のこ 北
ずむ花もて[illegible]備前[illegible] 信
うらうるれやうつ[illegible]林 仙

[illegible]一句

信因八　信仙九
昌純十一　元敬七
清長一　氏仍八
紹北八　信甫七
紹山十　甚何八
巴藥九　昌信十二
元晋一

同日

巴二梅　何風　黒村法眼　昌億

神や代[illegible]も梅見月
打ちあ[illegible]の流[illegible]あ[illegible]氏仍
千木[illegible]も[illegible]あ[illegible]信甫
春の朝風吹[illegible]落て[illegible]甚何
影[illegible]乃[illegible]梅や初めん元敬
[illegible]沢[illegible]て涼き信仙
[illegible]て[illegible]を[illegible]あ[illegible]巴
雪消[illegible]梅乃[illegible]信因
時[illegible]や一[illegible]春[illegible]の[illegible]紹
稲葉の[illegible]巴
[illegible]と長似て[illegible]夕[illegible]紹山

右さ社乃あら林も清き
きりさ〇ハ竹の林の清き陰
世かくうせう七のこと 信
大ちやのあ清の乃 仍
てらの佛ハさわ日ハさわ 南
雲のこと清なと羅のてれて 阿
孤光清 文乃猿 敬
別き一ち夜の月を芋の 仙
かりてつ乃 地
もの法と清なふ花人京 田
清人をとへ山かくまた 北
小しさのゆへハいと芋 築
玉の蓋の石面高きとう 山
波うる神やかさして狗し女 信

宿藤もいろ〳〵清しあ庭 仍
破船やさすも文えさし 南
ゆちる弱りる三日月の新 阿
川をおちを山人のふ入て 地
あやもひろあや雨の清葉 仙
さく栗ハ岩の間〳〵の後 山
ふ沖抱さつ迷猿樫し 田
巣のうちハ離るとうき 阿
う穂ふもう鳴ぬ秋のそ 信
雲白く彩のかりる雲て 北
沈ハ初ヨ月ひろ吉 敬
二〇
竹やちいさけ〇ろ宮の梅 仍
けさも雲まふ星鳴き 地
散やるをさ秋の清ふ 信

御のいこと土とし築
景行の形依弘敬き合敬
るわるハ志ゑ もさ瓜つる山
そこそもお湯のあらあ敬て仙
南の浦へ汐引し 法 何
風をいこを砂ゑうれて底純
久しや家もうる杉垣信
指 方も社をへ 弘 社令 因
やつを社の月い佛き北
ち法や敬まて弘ゑも衣山
まこ弘杉 ゑ 法 敬 甫
ゑ
ぢ ゑんのこ あて杉 築
あまいゑんの乃ゑ者み純
ゑさ弘杉の戸口敬ゑき信

ちくめさゑ あまれちつけ仍
ゑちこめ よ敬ゑれて何
ゑいもまいこ 弘 敬仙
かし弘杉のしつ弘れ甫
あゑやゑ法のゑ ゑるさ法信
酔ゑきハすめれる蔦何
ゑとゑゑぬたゑ弘し山
信をのこゑまん独毎純
しゑいける法法つ川了築
杉ゑハ月ゑ弘ゑの粉毎因
ゑくゑれ ゑ弘上敬
三ゑ 三ゑ杉ゑ杉つきのわくいさ仍
芳山ゑのさゑいつゑも純
永ねハそもんさぬのゑこ信

酔ふ後の聲こそハあはれ — 兆
併しやらふろぬ詩の心 — 仙
まろうと来るあたり人 — 蘭
月おもていはき格子をさかしる — 山
こゝに秋ふ吹やうしられ — 河
うれぬも読ハ諸侯の萩の色 — 築
露をおりてむしの鳴なる — 仍
うれさとは西日の後も氣し — 跳
こそもやとこそおもふなるめ — 山
行人ハ一夜あり屋まて — 敬
後ある様のものも殆し — 田
名
ひろハ名ある法の紀宗山 — 河
高雄の尖まてうち風も — 信
京とても龍の声ひらん — 蘭

詠なさくハさそ月太宗 — 仙
志しるを見えし清 — 山
いさり待のふ明なる — 築
朝霧駅待ひや待つらん — 田
猿なき啼月もて又と夜 — 跳
笠の端ハ落雪のうち流て — 兆
まゐ細さくらうし松信 — 河
さり夕来ん人思ひまゐ媾 — 信
用捨しらる山里乃門 — 山
小角ゐる神も月をや照らん — 仍
那久のあいら小角蔵 — 敬
入相の鐘ならしかへる務 — 築
花そハ強もちて侍つて — 信
六の寺ぶたのむ子 — 山

[illegible]の[illegible]いまてうまむ　国
小初[illegible]や到てもあぬ花の跡
ここまはまも今まで[illegible]を山
百[illegible]いさ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]て仙
[illegible]ちて[illegible]の[illegible]るしく[illegible]も昭

昌信十二　信国八
氏仍八　紹兆八
信甫七　景繁八
其何十　紹山十
元敬七　清也一
信仙八　賜巻一
昌純十

同日
巻三松

初何

松の色一[illegible]なく[illegible]の[illegible]景繁
若水を汲も井[illegible]掬ん其何
雪げの[illegible]ある昌信
[illegible]の[illegible]ある胡朔清也
[illegible]苔[illegible]ば[illegible]角元敬
[illegible]白き月の[illegible]掬[illegible]氏仍
[illegible]ぬ[illegible]昌純
[illegible]の[illegible]信国
小川の流さ[illegible]夕[illegible]紹兆
さ[illegible]掬[illegible]毋やかん信仙
[illegible]ん[illegible]紹山
常に求[illegible]信甫

おくまりとや息つく市人　證
時あらハ家まて泥も踏むらし　築
棲みくてる脇さく嘆き法　河
麻の葉にうつ晴るゝ夏の暮　佐
露も枕かゝひたるらし　仍
秋くも田面ハ山のふところよ　散
日影さし添ひとりまかれハ笛　田
いつまれ月ハ忘れし旅の友　珖
男尼ありまかりね宿はき　仙
ひとり神ハ思ひ行ずて　北
訪ふ者もなく下し松風　甫
石の動きもさそ風邪（蘇の草）　山
外にもあれぬ霜月乱る夜　信
浮るハちるさの浦ゐ漂し　河

二

書おきして千年の留守　珖
続つも独のところ踊りまて　仙
あそうちきうて何のハ何　築
いかなるもひゝる神の鶴の雲　田
尽きあふことも御はま遠　山
きふうぬも忘いは滑ぬ次見し　信
命つれなきまて隠家　河
清の師や雅ま昔此筆記　仍
まもりんの月ハ晴れ　散
ウ
かくいふる専ゆるかる谷下風　珖
ちる桜あれハ又そむるいふ　仙
めくしみ林の夕の萬の花　山
池の汀ニ翠のてらされ　信
さゝ波の底までみゆる玉柏　甫

蓬屋をうるおす奥羽し　北
雪の風に雪に出の宗うて　藥
今はひとりの時代なり　仙
鶴の子の西方世界穢土　何
元の分をうらはしも　因
いと高く萬年の長生　敬
いあるく舟は花垂き　法
屋をまてかつん浦の船　信
春はいろを春の雪　仍
うねの花の地こそ　山

一むら落ちうめる朝霧　信
二　山神のさらぬ塚の　法
屋に孤の影をうつす　藥
器物を免れの中の月　海

注仏様　元　唐かうく　南
さいしをも笹のもとしく雪　仙
をうけて来る法の芭蕉　山
ちうつる春はあれもれも　仍
行秋はもしさむしろ　何
折ふしてはねぬ夜のうち　信
屋をぬしぬれし神　敬
ちおれ月はむるる旅　北
笠もうつの四月ふる　法
三ウ
一本はいつこの山のふ　何
きけはうちさ猿の声　仍
うきるとうつるも　法
ふの月の恋ふる狂　仙
ふるとも酔ふ雨の明　藥

於ハ[illegible]と舟つとむる 信
花盛雜談四巻も終て 山
皆人の志る物の香ゆゑ 藥
氏長の宿のたの[illegible]ける 信
かりつく袋さそ后うゆ 阿
けをける物のすさけ 南
ひさしあつあもいさ物ゆ 弛
光明く腦の四さへ月雲 因
ゆ[illegible]る雲ハ消て[illegible]らん 北
名
葬乃地久車[illegible]あ[illegible] 信
夕へのあやゆ[illegible]る北お 山
四ゆと又ちさ[illegible]る鞠の使ひ 弛
小ちりをの志つ[illegible]る北 因
折奇妙の文法[illegible] 仙

花もかのくに沼ゆ[illegible]ず垣 信
脚ゆ[illegible]ぬ[illegible]て[illegible]の神の羽[illegible] 阿
以[illegible]さ[illegible]しの[illegible]猫北 南
[illegible]あ[illegible]花妹[illegible]て 仍
[illegible]たのむもあ[illegible] 散
かく系北[illegible]るけ[illegible] 信
[illegible]て[illegible]ら[illegible] 仙
多知北と恒果[illegible]ゆ[illegible] 北
苔蓮薄[illegible] 藥
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]て[illegible] 弛
志れ志[illegible]ゆ[illegible]松末 弛
大ひ[illegible]ハ[illegible]ゆ[illegible]の波 仍
[illegible]ゆ[illegible]の[illegible] 藥
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]山ぬ 信
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible] 因

底脇に涼しくさえの隈く　何
なかなかも深くあれば女房衆　仙
扇にまうて蝶の偽し　山

実種で一句

昌藻九	昌純十一
其諺十	信国八
昌信十三	紹兆六
清長一	信仙九
元敬七	紹山十
氏仍八	信甫六
	執筆一

廿六日
夢四　梅
朝何

梅か香や東風ハ吹志る千里外　清原中務権大輔 長時

春乃波緑やかつ江の舟　紹山
絹張蘇堤乃呼声暖て　昌藻
雲路のちら乃吉野香乃し　元敬
胡洞竹の梨かれて霜降る　昌信
夜の居士ミつむ笠代白菊　氏仍
川越えへ新志の月や晴ねる　信国
ウ
傘なけも以つ夕雪　紹兆
小車乃浴かかる忍竜　信仙
まけ山本とそや刈株なれん　清長
脱ぐ桜をあきも志とと此麻衣　昌純
我むとひかる猿の声まとひ　信甫
将ミるを傀や舟乃浮せ又ハ　其諺
うつ儀ひまる風烈しき　元晋
葛の葉枯ひるるぬるも枯野るそ　山

[illegible]こ　繁
[illegible]や蕎　敝
[illegible]月の[illegible]　信
[illegible]とこハ風[illegible]て　仍
[illegible]ぬ[illegible]　因
[illegible]の[illegible]枝　北
[illegible]て露[illegible]神　仙

二

[illegible]の[illegible]を[illegible]人朝の[illegible]び　南
[illegible]ひありんちさういさ　弛
[illegible]の世をけ[illegible]れむ　築
[illegible]しくもひし[illegible]夕[illegible]の[illegible]　何
[illegible]の[illegible]を[illegible]　信
[illegible]なりつさ秋のうへ　山
[illegible]や[illegible]　仙

[illegible]る[illegible]の[illegible]さ　敝
[illegible]を[illegible]せさ　弛
[illegible]ふ[illegible]を信　信
[illegible]ぬ[illegible]の　何
[illegible]辟の[illegible]さ　仍
[illegible]とする[illegible]　因
[illegible]ハ[illegible]云の[illegible]　北

二

[illegible]けるる[illegible]服　信
[illegible]ぬ[illegible]　弛
[illegible]ハ[illegible]　山
[illegible]を[illegible]知の[illegible]　何
[illegible]る天の[illegible]　仍
[illegible]る[illegible]　因
[illegible]や[illegible]　敝

秋の[illegible]ハ眠く覚ひるまして　信
流れもなれんと[illegible]道うきて　兆
くるしき扨ちら捨られし秋　築
腹立て[illegible]顔の主とハ　孫
月をもいとゝすさまじき園の戸　山
[illegible]捨ハ[illegible]花も[illegible]れて　仙
三
まくるしき[illegible]は表渡に[illegible]山　甫
蔵て来る[illegible]や[illegible]ぬらん　信
去年から[illegible]しき松本にて　孫
何くとも[illegible]花の[illegible]かな　山
さうなる東風に若氏　仍
客人のあとつゝめる和哥　築
かり [illegible]ても見えず[illegible]かりり　仙
清ハ[illegible]竹の林や涼しん　同

とうもなかく家鳴の声　山
むさしの落るハ山のまゝ[illegible]て　河
まゝの[illegible]薄[illegible]　築
ゆつり[illegible]涼しさ　孫
やつとも晴れ月の　敬
しろうるさく[illegible]の月　甫
ひきかけ[illegible]帷の[illegible]　信
三オ
語まつもる[illegible]の裳　山
[illegible]きぬのうちて　孫
花や今[illegible]　仍
何と[illegible]ますもゆる　河
二月の初ハ涼しくなりて　敬
さて浦中やはしつゝ　山
ぬるるハ覧れ[illegible]　仙

世をうこめ天の御柱　因幡
上人の好を勧る文の内　築
明れるも清らする神　南
雪うて庭花ひらく秋の色　信
ちるを惜の青ゝ高麗　北
涼しさの常ならぬ浦　純
月をうつす野の草の露　仙
夕されば雲すさまじく　河
雨を誘ふやいつち嵐　信
塩竈の浦を時の鶴　南
さゝうつして山路の月　純
又やうん落さ白う落葉　山
絵をこめる屏風のうち　敬
みゝをのゝ中も哀なる　北

駅伝ひの接ぎ　因幡
野の草も色を染人　信
見なれて世　仍
今ともなやの聖の語　因
月のけさを見る詩人　河
為盤を山さく秋の音　仙
うき世の中と鹿ぞ鳴　北
竹あり垣もすがら傾　純
山の戸月の入日哀　敬
涼しさの流れ　仍
四つをとるゝ夕立　築
中をの以て秋の風　河
四方山風の花を吹　信
いとゝ山の住家哀　北

子めう猪の春さやかなる時雨　南

紹鷗八　信仙八　清水一　冨蘭十一　信南七　其角九　元春一

紹山十　冨蘭九　元敲八　冨信十二　氏仍八　信因七

同日

才五松　何屋

ふる雪の裏にのこれる松の形　冨信

咲ちらす花を匂ひをうしなひて　冨信

勝ちらす明初雪の骨紹鷗

ふる雪千時　爲蘭

雪の面の山の面を晴り　冨蘭

涼しさは蔭も石の影の苔　其角

蝉鳴て美濃の国とまりけり　信因

ものすごんと年経の石のへに清水　元春

牡丹さく一本の蔭は涼をまつ　紹山

物ものさわがしく片蔭　信仙

ちらす冨の面の赤の庵の　元敲

あ毛月　折むる山　冨蘭

ひ杉　雲の名残の雲清　氏仍

秋色の書こ　風のいくもひ　冨信

冨陸のあ　ふしぬ　苦衣　信

面日なる　苔花の　紹鷗

被面を　ひさしそい形　冨蘭

雑談のうちをさし入郭公　阿
明やすき空ひ志ら〳〵鐘の音　回
住りし此つきいくりの村雨　山
枝の縁の観さる窓に福るら　甫
いと淋しく猿叫ぶ山　敬
二 けうと紀いにも住て秋の聲　仙
月しるきうちに化書　仍
阿何乃あ里の洞をせきとめて　琥
うきびすきめくうち一曲　回
蓋てたり庭を造る庵し　阿
あら紀ありる住松の奥　従
揚あら二亜り咲るや山の大　山
含のうちまかに祈るあさ遥　練
散るやみ乱る雪世への末　敬

冬こもりしや埜の菊花虎　琥
今ひとく風るつもしこまをゆひて　従
面影をしのつ歎きも志られん　山
繕へゆるむ草のはを流れしや　兆
清の流のけ衆斎し紀　甫
二ウ ちいさきいは沖中川の舟うして　琥
浅き路の打眠りし　阿
かし紀世も住ふりしこなたへ人心　回
うけしくきも忍ひてあら　従
真ゆ柳と旅は志らるんこ上よ　仍
おちそれしやうちの山里　仙
派つるもの末も今も桜　山
志田て菊や九日のうち　敬
熱ては蜂もはなぬ秋の風　従

ひゆるゆゑ（はやあり　絶妙　仍
うるひゐゐゐ　指ゐ　月の月　築
村のあひひの　雲海ゐる　弛
ゐゐれて　ゐやかり　竹ん　河
庵を定ゐ　三　月　暗ゐ　地
汗迫ハまゐ　弱ゐ入ゐて　仙
烟やくけゐ　ゐとれあゐ　山
樹の末ゐる　ひく　落葉　南
樓ゐあるハ　ハたあむ　東風　信
まゐちぬ　ゐて　市の　増　弛
なゐゐゐゐ　ゐゐなく　言　築
雲ゐ見のゐ　ゐゐ　流ゐし　山
流して　世やなけゐ　人　河
雲ゐ行ゐ　ゐむゐ　信

ゐゐゐや　生ゐ　弛
信ゐの里を　ゐゐ　地
ゐゐ潤ゐ　ゐる　琴の　田
ゐゐのなゐ　ゐ　仍
月ゐ　三ウ　ゐ　人　散
百ゐ乃ゐ　ひの　弛
ゐ　ゐや　ゐる　萩の戸　山
ゐゐ　ゐゐ　ゐゐ　田
ゐゐゐハ　接の　信
ぬゐ　ゐ　ゐ　立体　築
ゐゐ　ゐ　ゐ　仙
ゐゐ　ゐ　ゐ　山
ゐゐ　ゐ　ゐ　仍
白髮ハ　ゐ　ゐ　信

仏の名をハとゝ[illegible]　弛
[illegible]　阿
[illegible]　南
一筋ハけ[illegible]　仙
[illegible]村竹の[illegible]　北
[illegible]　散
[illegible]　信
[illegible]　仍
[illegible]　弛
[illegible]　薬
[illegible]　信
[illegible]　阿
[illegible]　仙

胡蝶乃夢を[illegible]　胡風　仙
[illegible]　南
入江の[illegible]舟つる[illegible]　散
[illegible]　山
[illegible]　田
[illegible]　仙
[illegible]　信
[illegible]　弛
[illegible]　南
[illegible]　薬
[illegible]　阿
[illegible]　北
[illegible]　仍

唐苑一句

昌信十三　紹山十一
紹北七　信仙八
昌業九　元敬七
其河九　昌綱十一
信国七　氏仍八
清長一　光河一

同日　西園院右宰相　時成卿

寿六梅

三字中略

かりそめ昔思ふ人の神の梅
今朝咲かんまゝに桜其河
陽明　彩の端山の雪を初て信国
宮の内ことしうつるの花　信甫
其の毋今為陽明　昌業

あこそのつゝ　清長
砂泥に照月のうつるれ　元敬
彩に涼し　昌業　紹山
宮の内の志ゆるし　陽八秋の末　氏仍
雪の花胡蝶　紹北　昌綱
曳ゆこゝ丁恒時　元敬　紹北
はあそかうの洞　昌信
ゆるの昔と梅の　信仙
長にもつるに　紹北　勝恒
山ともなん杉の麓　河
又世も　陽東の紅　国
陽明と立つ　昌業　南
やちうの花　陽　業
宮殿のさいき　山

池水のうへ水面ぱまつ蓋
勝るる月と四方のうち拵て　敬
治定いまたとる景色　弛
二
さて紅葉やまとへる山里　仍
駒ゆくむる体ひの神　住
涼けく弱くく小蓮の陰　兆
えいんも世のおのの乃居　因
反命の佛のお出灯　仙
ゆしやまぬといとかさ　築
ぬれるとかの○てちきれ　弛
恋を拵をめ命何ども　敬
葉ものもものもとも伝の　何
いかせもいのうち拵ぬ去　仍
雲もあを塔ゆる胸の雲　山
弛

いろ死彩の月垂れ　信
れるくるるし伝の拵て　兆
ゆけハ春のささ三の徑　因
二ウ
山ハ見渡ハ第ハ形の影　南
あるもの色芭蕉衣　山
ゆるるも深ましそ拵て　弛
まるうきんの立ハ祖し　信
何して結れるえの葉ぬん　因
いるれぬやれ日暮さ中　南
木ハ立ちるる文仕　仍
演さるるも時ゆる人　他
蝉きハ受縁ゆる伝の居　兆
覚るる色を日異ぬ　何
月計清涼るる丸本橋　信
因

[illegible]庵の山は書て清ぬる　樂
花見葉と芦のうら葉立ぬて　孤
其の物陽こしてもゆん　敬
三
到つるは第凡を明れ　仍
茂を へぬる獄しの名　田
等此者とぬ行る獄　信
絵ものいそ屋へきの山　孤
字ぬも鬼の形は世そる　樂
赤を絵さとる音しさ　山
書と世の理をあり　北
同じ心を感る人　仙
色あまと等此清流　敬
庵のうは何の風川　何
猿はいを絵を　孤

[illegible]れ　信
あるさひの庵此貧を　山
卯花を　やはしたる法　南
三月
吹を宿けさ風の高山　仙
神るを山は書る文　仍
思れは同は人をぬを　信
庵をつる雪を滝前　樂
雪も面れ此も平地の面　田
虫の鈴ともに庵の何し　孤
此をし法を童ら　何
いく秋の花法る地の所　山
と歩又月つぬ和奇　南
あるあるその文ら　信
花の去嘆むしる所の和　仍

[illegible]

立ぬもうつく枝ゆつくら　兆山

六の橋の新竹しんちく　純

さゝやめつゝまりるゆゝしも　仙

[illegible]　信

萩あそひあやかるるしこ　山

牡鹿ハ妻へのゝうこ入ぬん　築

山のうつたゝおるあうあけ　仍

おしてもふれぬ妻んて　兆

[illegible]　築

[illegible]の面影　仙

[illegible]ハ冊　[illegible]

むふ市ゆや狂流流　河

杉法乃又百しふ乃廿眠敬

[illegible]　信

一句出琴北　[illegible]　因

注ゝ住めるあつまの内　甫

[illegible]　山

[illegible]　純

蛛の糸ハ風ゝ[illegible]　河

知ハうくつゝあ花ゝ　仙

硯をもるもゝ神のあ　築

性の門ゝあゝ[illegible]　因

古文詩ゝ[illegible]　信

あ手雲ハ砂ゝん女　兆

時成ゝ一句　紹山十
真ハ　氏仍八
信因の　昌純十一
信甫七　紹兆八

昌築ゐ
清長一
元敬七

昌信十二
信仙八
勝恒一

同日 廿七日

何路　　庚申信仙　左陸

神やたる天代乃さうれわの表
めさとを留華梅いく本元敬
指衣立いつる野山巣て信仙
を近もへハ移やるつまん昌紀
留めを見諸ひめる日盛る氏仍
まつさやいや短夜の月紹兆
今を生れいさ村竹信乃昌信
祈りさあ鳴友雀清老

夕風ハ屋の軒ゝ吹落る信甫
かさつ明日ハたゝんれのと基の
落葉もつさて後へき山陰信因
沼やいゝ〻ひ附るつ痕昌築
かゝもわさうい拾ー右道紹山
庵のかもとめぬ世の末元晋
月を〻庵い音ゝとを敬
行ひ野やや秋の下火仙
更ぬれハ秋ゝる神のひゝる弛
岩屋ゝうもあハ鬼ゝ仍
ゝのうきあれ仏ても又風流北
ゝとるをの耳れ蝶さ信
入ねの猪まてさるぬ花の下何
まゝあ多ゝ猪ゝ山南

清雪もふるかのうら波やて　藥
人ほとゝも見ぬ物うの　因
月いたく降る社まうめ　仙
女やひとり住吉の中　山
ふるさと又まちかをしな　仍
きりのさらかしらぬつ　孤
仏乃原一向ゆゑひ入　甫
時雨もふるゆもるうう　何
小初瀬や秋夕うう村時雨　信
山ハあしの乃竹　孤れ　敬
夕うの野ハ時も信ぬし　因
孤の夕うう八重葉　藥
月新をひとゝ光の草陰　何
古人見ぬ社まつれ　北

玉椿出ハ枝ハうし　孤
ゆうけうの光書と牡れ　甫
塗や雨さうたる白山　山
ちうれんくをいゝ　信
動うと新ふいる軍て　藥
塔うに乱もし化人　因
草抱も降ういう牡の円　敬
嫗くまうゆもうし　仍
枯くいし信ぬ安　信
うし出のと者のうう　孤
月のう新ハ似ぬ草移　仙
入ぬる秋のあうきの波　山
草茶と波風うう花ゝこ　北
砌の雪出翠しん信　何

曙たにる月つる露の夢　弛仙
光さすそよ風も庭の
と朝ちもたるもる清の里　山
くるつきぬるあむへるあ丈宿　信
自車ゆきるそ荷れ　何
んるるくなしるあるさ　築
ほの世ゆ彩ゆ丈れあひ　田
らしけてもゆ何ゆ丈を　敬
かつけるいと業あ花衣　甫
蝶の舞そ　山さ丈下　山
詩多丈冊　信
いた去る　弛
と宵又月る噂を酒の席　仍
夢ゆ秋ゆ尚とあれむ　北

分ゆ入ゆるゆひの表の　山
うるれぬをゆるる垣　信
さ世綿ゆて紅ゆ雪の勸　弛
砂酒もれ寒さ世ん　仍
砂ゆ月ゆ風ゆる市堂　仙
あれゆるれるる丈山　何
かるれき伊勢の宮波敷　敬
又ゆの表ゆん妹ゆ　田
恋ゆて物ゆき文仕　築
きあ丈ゆむつけるゆさ　弛
かく文ゆ横落ゆ月なて　信
つる弥ゆむ表のひ　甫
ゆれをゆ指ふるる鞠砧　何
消る世そ月も月新　山

笹のとを吹しぬけの秋の山　仍
高く吉野の秋のむしの音　築
俳けいこけ小屋に引こもり　田
かくれておれば小何　信
夏そ小夏さ物さち　甫
はるかとなりぬる勇風　何
いさ紅葉なる泉川　山
舟のあらう亀の鳴ゐ　仙
清く流れ田中の流れ　信
電光きる紅乃ふる　弛
雲陰の月さりし　築
一村雨くれて出る　敬
蕎麦の花の白　北
花の名知あるゝ　仍

果は尚空とつる武蔵野　信
ふる雨の富士乃原山　田
何ぞぬ花とこれ初秋　弛
雪ふるにあるる秋　山
掃屋を定むお撰の名　仙
あるとさ信さ元寸　何
なるさふ冨しつ貢　築
花ふるとしいふる蔭　甫

左隆一句

元敬七　清水一
信仙八　信甫八
昌純十　其何十
氏仍八　信田八
紹北六　昌築九
昌信十二　紹山十
元晋一

六十七日

第八 梅

何人

従二位大納言 長義

杉ゝて梅をたゝるは此ゝ也

ゆゝしき雪も霜も神垣信仙

月影に高砂の数見て昌億

注つるし弱いさむしろ 紹鴎

蔭まつゝ和歌の浦人の心 信国

砌の山はたゝ一ちゝれ其

千ゝ代ゝまで木ゝも梅下紹山

ほれしく二つゝる丁ゝ 秀仍

寿ゝ比ゝ久も深ゝ和田の京晃

冊や陰ゝ砌潜まゝふし 信甫

傾ゝも言あゝまゝしく吹風 信也

ゝるれのゝに吹神の元敬

二月や花さゝん山路ゝ也 昌築

春日祭ゝ吹風にさゝひ 宗能

お霜むれのゝさゝ冬て 仙

行ゝのひつゝ行ゝ小車 信

和歌ゝみ月ゝたゝ嫁家 紹

ゝひの深ゝ神ゝ月ゝて 国

麓ゝ合尾花ゝ阿

老ゝ先ゝ咲ゝ山

ゝ宿ゝ歌ゝ山

清ゝ人ゝ仍

二 ゝ世ゝ純

ぬゝの住ゝ南

ゝのゝ今ゝ敬 敬

むらいきるる所の住ひ　仙
ゆくかたも所　此行む宿の山
うつる信のあり　桃里　河
雪のち白ぬる　帯　信
まをうも　菊　洗雪　北
仏野　いる　あて　紀部ん　弛
いさをうる　紀兵衛の医　山
作ぬ　ゆう　あひうる　陽　因
ゆうう　乃の　ひひ　仍
古ぬし　月　部　橋の上　河
ふるもるう　此信　川の　信
二ウ
歩人の独　や　雪　紀　山
うのうるの　や　雪けう　因
陸口の宮　墨　紀　墨　信

かどうさ人今もかけぬ　弛
もしえ　うめし机　築
うるこぬ　此あれし　南
生ある竹　清の林　仙
ませの　ひ　ふる　橋　山
ゆ月　紀　ある　仍
けさ　ひろん　河
月の　さの　紀　弛
陸　みる　こう　信
杉風　苦　舟　北
いく村　て　晴　松京　敬
ゆう　ひ　紀　仍
とれぬ　こ　陸　信
独素　字　きあ　弛　河

面八坐ヲうちよりて築
ムかしを書ゆきて沈まめ山
うゑ置てさハ行つる友仍
ゐつさて佛の乃ゑ入合面南
写のをうゑたちしめをいき住
うゑて新あ世つ弛
作く吉田の社久し紀仙
ゑ就里ハ蜀へ立ちら築
却むれ有る草うの神北
引ゆや月もうしの縄乃敵
海乃ゑ乃ゑ雲の者き因
ゑうゑ種夢流のつき住
川ゑゆうあう波ハうもも山
なて数波ゑう仙

恵まるてそ世のるひる弛
雑雨ゑへてゑれハうきん因
波さも又ゑのまりう築
乃ることうめるや奇妙仍
しゑ和出るあえる乃南
好ゑ雪もるう富士の山
舟ゑ川門ゆゑ見む住
毒の花もえやハ堤秋の弛
柳ちうてまゑる信仙
蝉の義月ゑると孫見築
ゆゑあつさやゑつきの神敬
ゑまつる酔の面ゑ風ゆ仍
うんひうゑ新の入あや山
天ゑもおんゑちれと見住

[illegible]の猶のいろ[illegible]　純甫
[illegible]山[illegible]　仙
[illegible]　敬
[illegible]月[illegible]　因
今[illegible]　[illegible]
[illegible]　仍
せ[illegible]　北
[illegible]　築
[illegible]　何
[illegible]　信
[illegible]　純
いさ[illegible]　布川の陶南
[illegible]の川上に　因

かたむけ[illegible]月　仍
[illegible]　築
耕[illegible]　何
[illegible]　信
[illegible]　敬

氏義一句
信仙七　氏仍八
昌信十三　昌純十一
紹北云　信甫七
信因八　清长一
甚何十　元敬七
紹山十一　昌築九
　　愛證一

同日　市九松
御何

東坊城お大納言
恒長卿

英代乃表狩衣のさうくわし
永安日新のさうくわし 紫雲
立麗く岩の高北斗晴て清色
をかけ 月もいまは信仏
いらそふ高北うの秋の風紫山
注彩陽もも春の日は蓮
面白し宮ちを月沢信甫
とり火の涼 やとむ川辺の冊の上 其信
陸ぬれつ弱る 神 元敬
くけしいひぬとひとつの墨
ふれまてのあれうも氏仍
と朝もも秋の夏風 信因
たのてらやし 独れの床時

月もあるあひしこの夜北
ほのうるるあ山
百時く蛙乃可仙
軍ひりてうけ南
雪も物場の太の阿
花今むうう切信
頃つきの芳の注彼築
二
黒彫の波雪義北敬
高北もむて蛙るみ因
躍つる奥き流ゑ仍
出けうるる第北桃弛
いるれ心人心山
邦の七代の束北人さ信

玉能とおもひて　昔物いひて　南
かうつけるやうに不二の仙
奇妙ハ高砂にかけても　樒花　藥
古日はかたにはくるる　苔　山
たれおハ酔るとて　紅　弛
陳もちうしてゆ　兆
節の音出ゆうけ　月の下　何
あるき夷をちるぬ　秋　藥
二ウ　扇面や如世紅列る　裏　山
いろ行　蓮　菩提の信　弛
葉も菓を射干　枯果　信
袋の裾　紙を踏ふく　仍
初しるる庵ハいろ　紙　因
節相の山の明やまとる　南

未たくのうけ　れ陸の上　兆
菓りもしる　舟のりる　信
朝ら村の方や　市北　藥
扇をおてさて　鶏　敬
無ふと道ふ　される　仙
松ふ意　やふ乃芝　山
初花をおて　孫ふ山下　弛
こもの里ふ　嵐晴ふ　何
まの田にせき入　おのの　信
うるひるも　れ人　鱗　弛
仏佛ハ世ふ　弘ふ法　仍
つをもこるく　松ふ大　藥
鶴もも立　かるる堀　山
中とあ　やふ琴の音　因

ちりうくみ芦の穂をふしあ　信
をかしうをかんさしたる　何
幻乃の仏へいりたうは　弛
ゆえくとゝれぬ事れ供　地
墨田堤ゆつもまつると　何
今をまうまの恵と定つ　仙
まを〳〵宮〳〵作くや月の花　敬
あゝめて拝くめつる歟　甫
三ウ
下のハしまん秋もかゝつる　因
いたあしやうきゝ女房赤　信
猿沢の池の色ハ清くて　築
城ゝ作たゆるはの影　山
洞布ハさゝし拝ゝ法度　仙
和花垣ハちりやすぬる　仍

ちく部ゝ　甫
うとゝれなゝたの事人　因
雨ゝ〳〵思ゝそもさすゝ　山
かゝゝハ雪れつゝ遠ゝ　弛
秋毎ゝ月むゝ雲月も　信
持〳〵衣の色ハ変く　何
移ゝん影あゝも面林　地
門ゝこゝてゝの雪ハ踏て　敬
小朝けゆの山ゝ消ゝ　弛
かすゝハゝあけの垣　山
新く乳の竹のまゝた　仍
雪ゝ払ひてゝ川澄　信
ゆゝそ野の秋く法乗　因
色面やさそ風吹　築

かゝるくハたゞ住捨し一つ庵　敬
花こそ折れ万樹のうち　仍
慈悲のいらにとゝふし泌　何
香けき谷ハ法まれそすれ　仙
村乃れハ婦とあるらし人の泌　信
世の中まつくも道ある見せ月　敬
昼眠月ニ復むあるし　純
やゝうおれハ愚さおゝぬ　甫
名ウ
にくらし蠅さん秋ハ去りし　仍
佃稜してけんさかれ　信
浜への浦ニ咲や松末の花　山
霧晴ひ月ようかふ舟の春　敬
庵寺もる社らゝあそらし　築
あつしいろやまれの文人　何

門のかのわりは文の書く学ひて　同
今も昔のあてゝりまハ詠　兆

恒長て一句	
紹長七	昌億十二
清長一	其何九
信仙七	元敬八
紹山十一	昌築九
昌純十一	氏仍八
信甫七	信因八
	伎存一

同日
才十梅
何船
大多井法眼
信仙
書かゝる人やまとを梅花
吹つけるのうらうら春　昌純
里々にあれ泊山とこゑそて　紹山

都の雪る踏ちらす　氏仍
千町田や荒神の人もまん　信甫
未だ塩の落しに　景藻
雅なる舟うと今朝も浦の風　基尚
落ぬも雪の鶴の松　元敬

ウ
打眠う雪の毛衣冬ぬれ清也
まろ鳴てぬるの山陰信因
おれ物の狩うう侍て　景信
こねもあるたく書信　紹北
松う雪せこまつ名れの高ぬ腸恒
戸口をしさしたの糸　仙
宿蓋て南蕉の麓合　弛
注笠の雪を用も吹る山
渓し　浦の灯　新潟て仍

名残の月のむ〳〵四石深　甫
あるるる庵のあ雪添　藻
分るしめ人も振の空　何
花笠を打さそやるれ面　敬
苔咲雲の窓もあるよ　信

二
以の長あん神の高井　因
おは山のうむしさひし　弛
蓄ぬれ八郎　雪の岩風　北
負るうり以う　湯きた　藻
めて面てそそ侍ぬ八侍　甫
昔志の八うきる九面　北
まいこぬや秋いこの宮腸　信
八日るるて以七夕　因
雑と又深之しる野宮　何

ちさるやうとたちうきぬ神仍
忍ぶ草しさ一なる花の風仙
恋の礼うつしうれしき柳山
深草の里の芝草の如きれて弛
衝雪ふる古ふるところ敬
二ウ
宮田の尾上や雪の除ん山
分れい宮しかもれ深京信
武士の小まれ下る神さい国
見ふる紅葉云れて弛
信ふる紅葉いと清仍
ふるのとふ名れ行ゆ山
秋とこの海い川い北
うふる玉ち出蛍ふて何
ふる出うさ貴紅葉信

ちさめ可ふるけさあるのこ築
眼ふ出大ふの作れて弛
春をむふ世中北人仙
賤ふもゆふ八の月八日敬
麻の衣秋うちやり神甫
三
遠見秋の風紅の庵何
ふ見ふふある高いふ信
紅ふ国仏の行きこ切穂山
ふりふつうき戸額弛
つふ元沼ふ名ふ行ふて築
ふふ仏ふる絵の新敬
兄実れされるふいふ仙
にふもれふて孫ふ庵猫山
いふつふいふふ風信

孫うんうつる乃ち西方
ちりぬる後の情の内まて　南因
行ひし月の曉　北
ひゆるも無しとの故　弛
三ウ
打ふくを待つる秋　北
歌詠や書もつたなの山　敬
そこを明ぬる出ぬるうん　阿
陰ふくそうく八重の雲　敬
姫百合のそそ人ふしぬ　信
ふれぬれ恋の時ぬ　阿
桐ふるく引ぬ牛のよ　弛
古友や離れつをもるん　仍
ほのぬ書の火入をて　築
をうれを待ふ振の後　因

新ふ入舞月の後　仙
ほ松ふ流涼き初揚て　信
高く高ひむ楽　南
弱のかハうかうの乾　北
ちりけふ初ふくきの雲　敬
名
永日ひとう菜まりて　弛
雲ひぬへし仙乃在　信
あの世乃生れを人出仙　阿
新ふちくさう雅志　山
明方ハ吹探ふるあし山　築
月の沈来ふかるむふ　因
一志ふう秋の時乾面ふ　南
探の枝をあせふ　阿
人の出れるあい高て　仍

さくら桜見れいくく咲し　藥
八ふひ重ちし此朽目の虫口じ　信
名ら八若人を刈人も形し　兆
外名野の卦のとちるる本下で　河
志ぬそしぬるや醉の盃　純
匡の賀八軒あつまりて祝ふ　藥
きぬ出ん借人も大へも薪鳴ら　因
いさるきさ此営乃时代ぶいを　山
あり皇のあふせりしうみ　仙
さうけ祀ゆる千す七の匠りて　河
三の寶をは今そやめぬる　仍
めりくをこさる綿も花のト　信
かすぬ捨たのむ法人　敬
信仙八　元敬八

昌純十二　清也一
紹山十　信因八
氏仍八　昌億十二
信甫七　紹兆七
昌藥九　勝恒一
甚何十

廿八日
追加
松
玉何

茨京俳諧
信因

鶯籬にいく二月りそ見れ雲
白ゆふかる梅さく鶯ぬ　元晉
鶯此うふも神のまゐそて　房丸
宮も宋てあくる宴の戸　以義
接夜や起おん菓まて　於謹

月ゝるゝを庭文神の庭　祐言
吹風ゝ空かゝゝ紅葉のゝ　元恒
音さに廉の時雨ゝ降しゝ　勝成
ゝ後ゝ尾上の秋の河霧て　勝恒
末ゝの桜のゝ紅ちゝ山　勝孝
ゝされい宮ゝゝ　忠淵
とゝへかゝゝ　紀定河
明石浦ゝ月いゝ歩ゝ泊舟　祐安
波ゝの浦ゝの漁火の影　元保
沙風の治る波ハ深ゝゝ　快春
花もみ代ゝ白へ吉原　九谷

中村俊定文庫